

茶業を活かした新しい観光の姿

Team - Ochat

○鈴木 さゆり (Suzuki Sayuri) ・ 笹岡 万桜 (Sasaoka Mao) ・ 諏訪 克昂 (Suwa Katsuaki)

山浦 大輝 (Yamaura Masaki) ・ 山下 るみ (Yamashita Rumi)

(京都府立大学 公共政策学部 公共政策学科)

キーワード：茶業、観光、グランピング

1. はじめに

今回私たちが題目にある研究テーマを取り扱うにあたり、調査・研究の対象としたのは京都府相楽郡和東町である。本町は笠置町・南山城村も含めた3つの地域からなる、京都府最南端の相楽東部に所属している。和東町自体は西和東・中和東・東和東、そして湯船の4つの地域に分けられるが、これらは元々村であり、戦後昭和の大合併の際に湯船を除いた3地域が合併し和東町が誕生、2年後に湯船も編入、そして今日に至る。主要な産業としては宇治茶の材料となる茶葉の生産が挙げられ、最近では宇治茶ではなく和東茶として、独自のブランド化にも力を入れている。茶畑自体の景観や鎌倉時代から続く茶文化も評価され、それを守るための景観条例が独自に施行されている。その他、お茶の生産に適していない湯船地域では山林資源や「堀川ごぼう」等の農作物といった、豊かな自然の恵みがある。

以上が、今回の政策提案の対象である京都府相楽郡和東町および湯船地域の概略である。以下の章にて、まず私たちが理想とする和東町の将来の姿を、次により詳しいデータ及びそこからわかる現状の姿と浮上する課題、そして理想の姿へアプローチする手段としての政策を提案し、最後に結論を述べる。

2. 研究目的（20年後の姿）

本研究の目的は、和東町が20年後も茶業を活かした観光を行う町として発展するために、和東町が抱えている課題や現状を把握し、和東町に合った政策を提言することである。観光客と農家と

の間の軋轢を解消することで、農家も観光客も過ごしやすい環境となり、茶業も観光産業もさらに発展することが見込まれる。また、前述の通り和東町は茶業を生業の中心とした町であり、近年茶畑景観の観賞を目的とした観光客が急増している。そのような和東町にとって、ただ観光客の数を増やすことだけを目的とした観光政策は、観光産業と茶業の両立を妨げる原因となってしまうと考えられる。和東町が観光と茶業が両立した町としてより発展するためには、和東町の規模や現在主力となっている茶業を考慮した観光の形を模索する必要があると考えたため、このような研究目的を設定した。

3. 研究方法と現状・課題

(1) 研究方法

本研究ではまず大学内で和東町の概要と、過去20年間におけるまちづくりについて学んだ。また、座学だけでなくデザイン思考を取り入れ、京都府相楽郡和東町で3度フィールドワークを行い、生業である茶産業の現場の見学、まちづくりのキーパーソンへのインタビューに加え、私たちの班が提言する政策についてキーパーソンと意見交換を行った。

(2) 和東町の現状・課題

相楽郡和東町は京都府の南端に位置し、その面積の多くが山林で占められている。人口は令和元年5月1日現在3,931人で、65歳以上の人口は44.9%と約半数が高齢者となっている（和東町より聴取R1.5.13）。和東町においても人口減少が続いており、平成17年度に4,998人だったのに対

し平成 27 年度には 4,030 人に減少している（同上）。

和東町の産業構造では第 1 次産業が約 25%（同上）を占め、これは府内でも 2 番目に高い数値である。平成 29 年度の荒茶生産量では府内全体の 46.4%を占め、府内 1 位の生産量を誇っている。このように「茶源郷和東」として名を誇る和東町において、その生業としての茶業が美しい茶畑の景観を生み出している。

観光地として、美しい景観を見ようと近年観光客の増加が著しい。観光入り込み客数は平成 26 年度の 75,571 人から 30 年度は 178,543 人と毎年右肩上がりである。それに応じて和東町においてもさまざまな観光政策が行われてきた。外国人や周辺市町村など国内外から観光客を呼び込もうと、お茶を使用した加工品の生産や、茶畑を活用したお茶摘み体験などが行われてきた。

しかしそのような中で課題も生まれてきた。生業としての茶業と観光とをどう共存させていくかである。生業としての景観が観光の一つであるため、そこにすれ違いが生じることもある。主なものとしては近年増加している、観光客によるマナーの問題（勝手に茶畑に入られる、道を塞ぐなど）が挙げられる（①）。そのためにはお茶の歴史や産業を伝える必要がある（②）が農家・住民の方が生業を大事にしつつ、納得できる形で観光を振興していくことが必要である。また、観光消費額の伸び悩み（③）や、若い観光客や家族連れが少ない点（④）などである。人口減少と高齢化が進む中で、生業としての茶業と観光のバランスをとり、お茶を利用した新たな地域のブランド、スポットづくりが求められていると言える。

4. 政策提案

以上をもとに、和東町がより発展するような案を提言していく。まず、湯船地区にグランピング施設を建設することを提案する。グランピング施設とは、自然の中に設営されたテントで、その土地を感じながら観光客がキャンプなどを楽しめる施設のことであり現在若者や家族連れを中心

に人気が高まりつつある。前述の④の課題に対して解決が見込まれる。次に、もう一つの課題である③の解決方法として、和東町ならではの商品やサービスを提案する。具体的には、茶葉を使った洗顔料や消臭剤などのアメニティや、ジビエや湯船地区の森林公園内にある釣り堀を利用したバーベキューである。茶葉を使ったアメニティをグランピング施設と併用して宣伝し、またグランピング施設の夕飯として、ジビエや釣り堀の魚など、あまり活用されていない地域の資源を利用していきたい。さらに、前述の①の解決方法として観光専用茶畑を設けることと、QR コードによる注意喚起を提案する。観光専用茶畑を曜日ごとにその茶畑を担当する農家に管理と観光客への説明を委任し、代わりにその農家だけがその観光用茶畑で商品を売ることができるようにする。また農家の説明を聞いて興味を持った人にはオプションとしてその農家の茶畑を見学できる仕組みを作る。また、外国人観光客に対応するため QR コードを主要な茶畑に設置しマナー向上に努めたい。これにより住民からの苦情の軽減と観光客のマナー改善だけでなく、和東町に経済効果をもたらされ、かつ観光客にお茶の歴史や産業にも触れてもらうことができる。最後に、前述の②の課題を解決するためにお茶ツアーを提案する。茶摘み体験や利き茶体験など和東町でしか体験できないことをツアーにし、グランピング施設の宿泊客はツアー料金を割安にするなど連携もさせたい。

5. まとめ・結論

私たちの提案により、現状の課題を解決できるほか、経済効果も見込まれ、それらを茶産業に活用することでよりよい町になると考える。また、自然や茶産業を活かすことにより観光客の思い出に残る場所になると期待できる。

参考文献

『湯船の魅力』和東町地域力推進課
『湯船森林公園 和東町』
(<https://www.town.wazuka.lg.jp>)